



▲23人の女性達による話題のユニット「YOKOHAMA屋」の『女達のバラード』10月17日発売／CD・NMZ-15013／Melody Records。エレガントで、ちよびり切ないバラード曲だ



ただひたすら考えてきた事がある。それでも出来ない事がある。だからこそ出来る事がある。そして、そうでないと出来ない事がある。そう、そうでないと出来ない事。

「博多屋・本店」という25名のボーカル・ユニット（※注）の歌作りを始めて2年。今年は「山科屋」と「Y

KOHAMA屋」というボーカル・ユニットをスタートさせる事が出来た。こうして出来たのも、構想期間10年余りがあつての話である。

私が信頼し、私を信頼している人達の、つまり、歌を通して作る、自然で偉大なる企画なのである。この先、私の頭の中には、東京国際フォーラムのステージがある。

生む苦しきは、育つ楽しみに変わる。これは人生の全てに言える事で、その一歩の歩みがこうして2年前に始まった。

今、私の元へ、全国各地から問い合わせがある。次の企画は是非うちの県で、うちのサークルで…と。しかし、私は今は、手一杯で、デビューしたばかりの「YOKOHAMA屋」を売らなければ前に進めない。作ればいいのではない。勝ち抜かなければならない。そして勝ち残らなければ全く意味がないのだ。趣

味でやっているのではなく、体を張って命をかけて取り組んでいる。

このユニットが、大いなる市民権を得れば、一流の存在として色々な事に取り組めるのだ。

ひとつはコンサートツアー。ひとつはドラマの主題歌とコラボ。そして、あとひとつが、ポランティア活動である。とにかく、一流にならなければ、何も出来ないのだ。一流だけを目指すのみである。

そんな事、あんな事を思いながら、「YOKOHAMA屋」の『女達のバラード』は、10月17日、メロディーレコードから発売され、活動に入った。

この団体戦（ユニットやグループを私はそう呼んでいる）に、バラードを加えたかった。そして、彼女は見事に唄ってくれた。

リードボーカルもハーモニーも、少し前までアマチュアだったと思えない位の出来映えである。

人間って、ある瞬間から変われるのだ、と思った。平均年齢が高くて、美しい声は美しい。加えて、年齢を重ねた分の人生観の沁みだ声がなにより嬉しい。つまり、年齢ではなく、その時どう生きるか？何を選ぶか？である。その気持ちと志が全てを決める。未だ未知な

る己に出会えるのだ。その努力と情熱が、「YOKOHAMA屋」になった。

皆思うのだ。私が…今…ここにいます。

彼女達は今、定期的に神奈川の大和市にある学習センターの一室やホールを借りて、歌と踊りの練習に励んでいる。今までになかった人生の時間割りである。その学習意欲が素晴らしい。AKB48がそうである様に…。いつかの出番の為に、未来に続く道となる。

彼女達の歌唱力は今、いつでも市民会館レベルで唄えるまでになった。進化する女達がここにいます。



たきのえいじ

本名・滝野英治
1949年8月31日、愛媛県大洲市生まれ。作詩・作曲の両分野で活躍中。演歌謡曲にあつては主に作詞家としての活動が目立ち、五代夏子、田川寿美、石原詢子他に数多くの作品を提供している。

（※注）ユニット、とは？→本来は単位や組織などを意味する言葉だが、音楽業界では、複数の歌手・音楽家によって結成される集団、という意味で使われる。